

安田女子中学校

入試科目		算数	国語	理科	社会	総合
試験時間		45分	45分	45分	45分	—
配点※		100点	100点	100点	100点	400点
専願受験者平均点		45.4点	63.6点	54.1点	45.8点	208.9点
専願 合格の目安	得点	30点	42点	36点	31点	139点
	(%)	30%	42%	36%	31%	34.8%
一般受験者平均点		67.0点	74.9点	69.6点	56.6点	268点
一般 合格の目安	得点	43点	49点	45点	37点	174点
	(%)	43%	49%	45%	37%	43.5%

※総合コースの配点になります。
自然科学コースは算数国語の配点が200点になります。

算 数

- | | |
|---|--|
| 1 | 計算問題(1)整数の四則計算 (2)分数の計算 (3)計算の工夫 (4)小数・分数の計算 (5)括弧のある小数・分数計算
(6)逆算 |
| 2 | 小問集合(1)分配算 (2)面積 (3)売買損益 (4)周期算 (5)場合の数 (6)連比 (7)展開図 (8)図形の移動
(9)トーナメント |
| 3 | 水量の変化とグラフ 小問数：3 |
| 4 | 速さとグラフ 小問数：3 |

今年度から入試Ⅰ・Ⅱが共通の問題になりました。大問4題、小問21問の構成になっています。昨年度の入試Ⅰ・Ⅱともに、大問4題、小問26問でしたので、問題数だけみると1問あたりにかかる時間が長くなっています。

1は計算問題です。6問のうち4問に小数や分数が入っています。小

数、分数の変換をすると計算しやすくなったり、計算の工夫をすることで数字が簡単になったりする問題はありましたが、普段から小数や分数の計算をきっちり練習していれば答えを出すことはできます。過去問演習を行う際には、丁寧に計算することに加え、工夫して計算できそうな時には工夫する意識を身につけ、見直しまでの習慣をつけましょう。

2は小問集合です。(1)は分配算の問題です。短いロープを基準に置いて考えれば正答できます。基礎の問題なので必ずできるようにしましょう。(2)は面積計算の問題です。半円と直角二等辺三角形を重ねているので、基本となる図形の公式を知っておくだけでなく、基本の図形を重ねた問題や、基本の図形から基本の図形を取り除く問題もしっかり練習しておきましょう。(3)は売買損益の問題です。売買損益の問題として標準的な問題ですが、割合の計算の問題はしっかり練習しておかないと解けません。まずは仕入れ値から定価、定価から売り値という1段階ずつの計算の流れがしっかり見えるようになりましょう。(4)は周期算です。繰り返しをしっかりと見つけることと、余りの数が並んでいる数字の何個にあたるかをしっかりと探ることができれば正答出来ます。(5)は場合の数です。計算で出す問題もありますが、ここではしっかりと数えて正解することが大切です。(6)は連比の問題です。基礎の問題です。比をあわせる練習をしておきましょう。(7)は展開図の問題です。立方体の展開図の問題をパターンで練習した受験生には厳しい問題となりました。低学年のうちから色々な図形に触れていた生徒には答えがみえたかもしれません。(8)は図形の移動の問題です。移動している図形を止

めながら調べていけば答えを導き出すことができます。(9)はトーナメントの問題です。条件整理の問題ですが、必ず当てはまる条件から探していけば正解できたでしょう。

3は水量の変化とグラフです。苦手とする受験生が多いと思われますが、(1)、(2)の問題が解ければ問題ありません。グラフの問題は読み取る練習と書く練習を両方しておきましょう。(3)の問題は、標準の問題ですが、この問題が解けなくても合格することは可能でしょう。

4は速さとグラフです。(1)の速さの計算は確実に正解したい問題です。(2)のグラフを読み取る問題は、選択肢が6つあり難しく見えますが、(1)でAさんのかかった時間を出せた生徒はそのまま選択肢を2つにしぼれたので正解できたでしょう。(3)も旅人算の標準問題です。しっかりと速さの対策をしていた受験生には問題なかったでしょう。

出題内容は基礎から標準の問題がほとんどです。普段からしっかりと単元別の練習をしていれば合格点をとることができる問題になっています。過去問を使って難易度や時間配分に慣れておきましょう。

国語

一 漢字と語句知識についての問題

二 朝比奈蓉子 『わたしの苦手なあの子』

三 角野栄子 『ファンタジーが生まれるとき』

(小問数10問)

(物語文 約2100字 小問数14問 うち記述4問)

(説明文 約1800字 小問数10問 うち記述3問)

昨年まで、入試日が、専願入試(入試Ⅰ)と一般入試(入試Ⅱ)で分かれており、別日(昨年は、入試Ⅰの三日後に入試Ⅱを実施)に実施されていましたが、今年度からは共通となりました。

出題内容を見てみましょう。今年の国語は、漢字とことわざの知識問

題・物語文、説明文の大問3題構成でした。これまでも、入試ⅠかⅡのどちらかが大問3題、もう片方が大問2題(物語文・説明文)ということがよくありました。そういう意味では、出題構成に目立った変化はなかったと言えるでしょう。

次に、本文の字数合計・小問の総数を昨年の入試Ⅱ（今年と同じ大問3題構成）と比較してみましょう。昨年(4100字・34問)・今年(3900字・34問)で、今年は本文の字数が若干減りましたが小問数は同じです。量的にも目立った変化なしと言えます。

それでは、大問毎に設問の内容を見ていきましょう。

□ 漢字とことわざの知識についての問題でした。漢字の書き取りが4問・読みが1問、漢字の誤用訂正が2問、ことわざが3問出題されています。昨年の入試Ⅱ・一昨年の入試Ⅰとも漢字・語句問題が大問として独立し、どちらも「ことわざ」が出題されています。これで3年連続の出題。「ことわざ」は要注意かもしれません。問いのレベルは基本から標準で、日頃の演習やテストで見覚えのあるものばかりです。漢字や語句の学習は、間違っただけをきちんと覚え直すといった丁寧な取り組みを心掛けましょう。

□ 物語文の読解問題でした。ふくらはぎに大きなやけどのあとがある小学生の少女が主人公です。やけどのあとについて悪口を言われたことが心の傷になっています。「やけどのある自分」を好きになろうと決心した主人公が、友達に助けられながら心の傷を乗り越えていきます。主人公の少女目線で書かれており、使われている言葉や表現が平易で大変読みやすい文章でした。出題内容も、慣用表現の完成・心情理解（記号選択・書き抜き）・内容理解（記述・25字、記号選択）・空所補充（記述3問・10字以内）・語句の書き換えと、基本・標準レベルでバランスの良いものになっています。最後の問いでは、この話を読んだ二人の生徒による、登場人物についての会話があり、その会話をもとに空欄補充をする記述問題が出されています。書き抜きに近い記述問題で、決して

難しいものではありませんが、正解を答えるには、場面毎の登場人物の心情が正確に読み取れていることが必要です。日頃の読書や読解演習でも、登場人物の行動と心情を丁寧に読むことを心がけてください。

□ 説明文の読解問題でした。宮崎アニメにもなった『魔女の宅急便』の作者、角野栄子の「ファンタジーが生まれるとき」が出典です。童話作家らしい、優しく易しい表現で、作家自身の想像力がどこから来ているかを語っています。出題内容は□同様に、基本から標準的なレベルでバランス良く問われています。また、問二では、日本と西洋の家の建て方の違いが、そこに住む者の感じ方・考え方に影響を与えているという筆者の主張をまとめた表を作り、表内の空欄補充や記述問題を出题しています。筆者の論理展開がつかめているかを問うものです。物語文とはまた異なる、論理的な読解力が試されます。読書では、常に「筆者は何を述べているのか」を確認しながら読む癖をつけることが大切です。

今年の入試問題を見て一番感じたことは、読解問題の本文の平易化です。前述したように、設問の形態は例年通りなのですが、物語文・説明文とも本文がかなり易しくなっています。今年的一般入試の国語の受験者平均点は、昨年より16点上がって74.9点で、近年にない高い点数でした。これには、本文の平易化が大きく影響していると思われます。

この反動で、来年は本文の難度が高くなることも考えられます。来年の入試Ⅱに向け、英進館鯉城学院の『中学入試国語出典読書案内』を参考にして、しっかり読書、しっかり音読を心掛けてください。読む力は、読むことでしか付けることは出来ないのですから。

理 科

- 1 生物分野から、動物の分類 に関する問題（小問19）
- 2 物理分野から、てこのつり合い に関する問題（小問9）
- 3 化学分野から、気体の発生（水素、酸素、二酸化炭素） に関する問題（小問8）
- 4 地学分野から、天体総合（月の満ち欠け、日食と月食、地球の公転） に関する問題（小問10）

去年までは入試問題が入試Ⅰ（専願入試）と入試Ⅱ（併願入試）で分かれていたのですが、今年から専願入試と一般入試の問題が同じになりました。ただ、例年と変わらず物理・化学・生物・地学の4分野からそれぞれ大問1題の出題で、バランス良く出題されています。内容としては、いわゆる奇問、難問といわれる類の出題はなく、基本から発展まで幅広く問われる内容です。また、実験観察の結果や表から分析・判断させる問題や計算、解答形式もグラフや絵の作図や記述など、それぞれがよく考えられた問題が多く、受験生が様々な事象について論理的に筋道をたて、表現する力などを問う広い出題内容となっています。

1 動物の分類に関する問題でした。この单元ではおもに知識が試されます。動物の分類の仕方やそれぞれのグループの特徴を理解していないと、正解できなかつたと思われます。問1・問2は、セキツイ動物の知識問題、問3は、魚類と鳥類を選ぶのですが、イルカなど紛らわしい動物に注意が必要でした。問6は、イモリとヤモリがどちらが両生類であるかを答える問題で、動物の分類の中でよく出る問題です。問8は、恒温動物と変温動物の特徴を穴埋めしていく問題で、グラフが与えられているので、解答しやすかつたと思ひます。

2 てこのつり合いに関する問題でした。与えられた条件をしっかりと読み切つて計算していけば、問題ないでしょう。特に問4は、モーメントのパターンなので1つずつ地道に計算していく必要があります。また問6では、棒に重さが加わつたので、重心をきちんと考えて求めていく必要があります。この单元では、正しく計算できる力が求められます。日々

の学習から意識して取り組んでいきましょう。

3 気体の発生（水素・酸素・二酸化炭素）に関する問題でした。問1～問5までは計算問題はなく、知識問題と実験の結果から分かることを正確に読み取る力を求める問題でした。問6は、与えられた数値からグラフをかきただけなので、シンプルに考えればかき切れます。あとは、問6の結果から過不足なく反応する量を見つけられたかどうかです。それによつて、問7・問8の解答に影響していきますが、正しく出せば、計算も複雑ではないので正答できます。

4 天体総合問題で、月の満ち欠け・日食と月食・地球の公転に関する問題でした。問1・問2は、月の満ち欠けに関する問題で、太陽と地球と月の位置関係に気をつければ、問題なかつたでしょう。問3は、日食と月食の位置関係を図示する問題で、正しい知識があれば正答できたと思ひます。問5は、思考力を要する難しい問題だつたと思ひます。問題条件にしたがい、Dの位置に来た時に正しく方角を定められる事が必要で、受験生の中にはイメージが浮かばなかつた人も多かつたのではないのでしょうか。

同校の対策としては、物理・化学・生物・地学の4分野からバランスよく出題されますので、受験理科で必要な基本内容をきっちり定着させる学習を心がけていくことと、特に物理分野や化学分野での基本的な計算問題は何回も練習して身に付けていきましょう。また、文章記述に慣れておく練習が必要です。

社会

- 1 《地理》 日本の地形に関する問題(10問)
- 2 《地理》 日本の農業と交通に関する問題(11問)
- 3 《地理》 日本の漁業に関する問題(5問)
- 4 《歴史》 日本の歴史に関する問題(12問)
- 5 《歴史》 日本の歴史人物に関する問題(10問)
- 6 《公民》 成人年齢引き下げに関する問題(10問)

2019年度の安田女子中の入試問題は、大問が6つ、問題数は昨年の63問に対して58問と少し減りました。受験者平均は昨年度の56.9点から69.6点となり、問題の形式はほとんど変わっていませんでしたが、かなり解きやすくなっていたようです。

1は昨年に引き続き、日本の山脈名、山地名、河川名を答える問題でした。それぞれ山脈や川の名前と位置を覚えるというのは、地理の最も基本的な知識であり、確実に得点しておきたい問題でした。

2は日本の農業と交通に関する問題でした。出題されたのは新幹線の路線の名前や空港の名前など、基本的なものばかりです。問3は「東京スカイツリーに行くまでの交通手段として、新幹線と航空機のどちらをあなたは選ぶか」という問題で、資料を読み取った上で自分の言葉で説明する力を問うものでした。新幹線を選んだ方が書きやすくなっているものの、航空機を選んでも説明の仕方次第で正解になりえます。このように、解答が一つではない問題が出題されるケースが、近年中学入試全体で多くなってきており、普段から自分の考えを自分の言葉で説明する練習が必要です。

3は日本の漁業に関する問題でした。ここでは漁業の種類と生産量の推移に関するグラフがでていたのですが、必ずテキストに載っているおなじみのもので、知識だけで答えられる問題でした。問5のみグラフの

読み取り問題で「今後養殖業に力をいれていくべき理由」を説明する問題でした。グラフから読み取れることが非常にわかりやすいため、書くべき内容はわかりやすかったと思います。

4は資料を読んで問題に答える歴史のオーソドックスな形でした。2つの文章の正誤の組み合わせを答えさせる問題があるので、しっかりとした知識が求められます。出来事の年号を要求している問題もありましたが、すべて基本的な知識のみで解答可能なものでした。

5は歴史人物に関連した出来事や、その活躍した時代を問う問題でした。アプローチの仕方は違うものの、問われている内容は基本的な語句ばかりでしたので、特に苦勞なく解けたのではないのでしょうか。

6は成人年齢の引き下げに関する新聞記事からの出題でした。成人年齢引き下げを決定するのは「民法」であるということが問1で出題されていましたが、別の選択肢の「憲法」と迷ったかもしれません。問5では、昨年問題であった「ブレイン・ストーミング」を想像させる問題でした。過去問を解いていれば、選択肢を読んで、見たことがある内容だなと感じたかもしれません。

例年、6割得点できれば十分合格が見込めます。安田女子中はまだ知識重視のテストとなっているので、繰り返し学習して語句を覚え、そしてそれを自分の言葉で説明できるように学習していきましょう。